



宇部市で見つける・宇部市で叶える

慶進高等学校 教諭 高松 祐次郎



思い返してみると、「高校生と地域の繋がり」「本物との出会い＝真の成長」を強く意識するようになったのは大学生時代の経験からです。

地元大学の教育学部に在学していた私は、子どもの現状を理解するため、近隣の小中学校にお邪魔し、授業参観や放課後の学習支援を行ってきました。また、学部主催の宿泊体験学習の企画運営に在学中の4年間継続して携わる中で、「自ら課題を発見し、仲間との対話の中で課題解決の糸口を発見するプロセス」を学んだ子どもたちのいきいきした表情・大きな成長を目の当たりにしました。

そのような学生生活を送った私は、慶進で勤務をスタートした1年目から、「地元の書店と高校生を繋ぐ」「地元大学と高校を繋ぐ」という二つのテーマを自分の中で掲げ、「自分たちの作ったポップを自分たちで飾る」「大学主催の宿泊体験学習への高校生スタッフの参加」に着手しました。

地域の方・書店員の方・宿泊学習に参加する大学生・子どもたち、そして何より参加した高校生の充実した表情、そして参加後の進路意識の高揚に、「課題解決学習における学びの深化」を感じられました。

それから今まで、私は同僚や生徒とともに、たくさんの素敵な出会いを繰り返してきました。学校を飛び出て「地域の欲しているもの」、「生徒の意欲」を形にするために地元商店街とコラボして慶進祭の実施をしたり、「グローバル・コミュニケーション」（本校の探究学習の授業）と時を同じくして立ち上げた「郷働ネット」（「郷」里で共に「働」くことを目的とした生徒主体の地域協働サークル）を活用して生徒が

自ら課題を発見して、「本物に触れる」お手伝いをしたり…。「生徒は幸せになることを学びに学校に来る」という根っこを大切にしながら、地域と高校生が豊かに繋がるサポートしてきたつもりです。

慶進にとってもまだまだ「地域連携・地域探究」は道半ばです。「生徒自身が見つかる幸せ」を切に願います。今後も邁進していきたいと思えます。



写真1 新天町のイベントお手伝いの様子



写真2 書店のPOP、作成・陳列すべて生徒



2023年度第2回 環境サロン

- ・日時： 2023年10月4日（水）18：00～20：00
- ・場所： 宇部市多世代ふれあいセンター 3階・第3講座室

- ・講演： 川尻剛士さん（山口大学教育・学生支援機構・助教）
「公害問題から環境問題へ」再考ー教育研究の立場から
- ・話題提供： 浮田正夫さん（うべ環境コミュニティー）
持続可能な人類文明の可能性について考える

☆申込：環境学習館へ、氏名・電話・対面かオンラインの別を連絡、メ切10月2日

☆資料代：200円（高校生以下無料、オンライン無料）

川尻剛士・プロフィール

一橋大学大学院 社会学研究科博士
後期課程
日本環境教育学会 中国・四国支部
運営委員

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



Home Page



facebook



twitter



NPO 法人うべ環境コミュニティー



自然・生・食の原点「畑」と先進IT×機械の融合で子ども自主協創ひとづくり改革 「スマートプレイふぁーむ」で多世代57名が未来を拓く

山口大学大学院創成科学研究科・准教授

工学部附属ものづくり創成センター・副センター長 小柴満美子

自然で産み生きる原点の食づくりが、一般教育課題から忘却された歴史は長く、人の本質的な学びの機会が得られなくなった次世代の未来はどうなるのでしょうか？テクノロジーの進化ベクトル上で、子どもたちに本質的なウェルビーイングを目指す概念は育つでしょうか？

ところが、こんな心配を吹き飛ばすほど、細胞・遺伝子はITネイティブの学生や子どもをも、きちんと自然・食生産に導いてくれる、とわかりました。農業に無縁の工学部学生らがNPO法人・古民家クラブの支援で休眠畑を借り、講義の合間に日々畑づくりに励んで、大根・枝豆・トマト・カボチャなどを自主的に育て始めたのです。

そこで、次世代の自主・協創・克服のひとづくりシステムを、先進技術と自然の融合で探り続けている山口大学工学部ものづくり創成センターでは、宇部市×山口大学×宇部工業高等専門学校連携授業であるワクワク未来デジタル講座のワークショップとして、小中高生の自由なアイデアと一緒にカタチにする教育イベント「スマートプレイふぁーむ」を8月16-17日に行いました。前週に畑体験を導き、複雑で困難な課題を自由に発見してもらい、子ども自身が考えて来た解決アイデアを、1日目のプログラミング基礎学習後にTA学生とプロトタイプを創り仕上げました。2日目に畑で交換発表した、遊びマインド満載のプロトタイプの例は、マイコンで自動配水システムや収穫/草取り競争ゲーム、ドローンでプログラミング自動カラス追い出しや種まき、AR（拡張現実）で良い虫と悪い虫を見分ける偵察にドローンデザイン、と、高度でおもしろい協創の輝きに溢れる青空・緑と笑いのファームとなりました。発表後にファームで藤重氏が収穫したスイカ

やいちじくを全員で頂きながら、未来人の才能の爆発力に心からの驚きを共有し合った体験となりました。

(山口大学HPの情報URL)

http://www.mono.eng.yamaguchi-u.ac.jp/supportproject/pdf/20230816flyer_03.pdf



図1：1日目午前中にTA学生と子ども参加者による8班がプログラミング基礎演習後、プロトタイプを協働創作



図2：2日目朝は則貞ふぁーむでスマートプログラミング・ドローン作品などを発表 カラスの絵の旗をかざすとドローンがAIで自動識別しアラーム発信フライト

宇部市地球温暖化対策ネットワーク活動への思い ネットワーク代表 渡邊裕志

『宇部市地球温暖化対策ネットワーク』通称UNCCA (Ube Network for Climate Change Actions) の代表を務めています渡邊裕志と申します。2002年11月、今から20年以上も前のことでした。まだ地球温暖化の問題が今日ほど切実に語られていなかった時代に、この宇部市で「地球温暖化対策」を真正面から受け止め、立ち上げられたこの市民活動。初年度から数年間は、事務局を宇部市役所環境共生課内に置いて、「省エネナビモニター事業」「市内一斉ノーマイカーデー」などを掲げた、官が主導する形での活動が原点にあります。その後市役所内に置かれていた事務局が、民間主導に移される形で街中に事務所を構え、活動のすそ野がさらに広がることになりました。



そんな20年の間にも地球は温暖化への加速を早め、それに伴う豪雨や猛暑日の発生頻度は増加の一途を

たどる事態に直面しています。その原因は人為起源の二酸化炭素CO2累積排出量とほぼ相関関係にあると帰結され、わが国でも温室効果ガス排出削減が喫緊の国民的課題となっていることはご存知の通りです。昨年策定された第三次宇部市環境基本計画にも、温室効果ガス削減目標が明記され、カーボンニュートラル実現に向けての取組みが宣言されています。

宇部市地球温暖化対策ネットワークUNCCAでは、これまでご家庭や子供達を中心に地球温暖化対策への分かりやすい情報の提供や体験講座活動を進めてまいりましたが、これからも「脱炭素社会に向けた取組み」を広く市民の方達にご紹介し、普段の社会生活を通じた「COOL CHOICE」運動で、地球温暖化対策に資するあらゆる賢い選択を促すことのできる活動やイベント展開を進めていく所存です。

これらに加え、今後さらに「地域協議会」としての役割をも担うことで、地元企業との連携、高校大学など教育機関とのアカデミックな連携、さらには環境問題に多面的に取り組まれている他の市民団体との、実効を伴った産官学民連携強化に私達のエネルギーを提供できればと、次代の活動の姿に思いを馳せている私達であります。